

進路通信

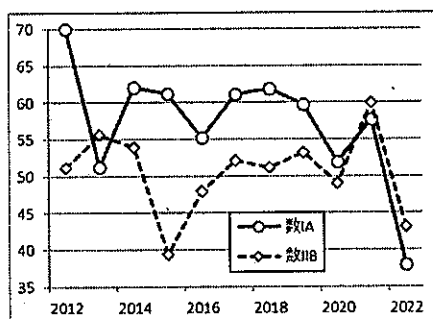
兵庫県立北須磨高等学校 進路指導部

【走り高跳び的学習法の危険】

走り高跳びではバーを飛び越えるとき、頭・肩・背中・腰・足が順番にバーのぎりぎりの上空を通過していきます。これら体の各部分がどれだけバーに接近しながら、しかも接触せずに通過できるかが記録を左右します。

中間検査が終わったので、どの教科の授業も共通テスト向けの演習が本格化してきていると思います。授業の演習では点数よりも、どの問題で失点をしたか・不確かな知識はどこか・自分の弱点はどこにあるかを毎時間確認することが本番に向けて実力をつけるための最重要課題になります。このとき、解説冊子を見て「ふんふん」となるだけではこの確認が十分でないケースは多いです。また、できなかった問題を中心にして、もう一度教科書や参考書・問題集までさかのぼって完全に復習しようという人も少ないのが実情です。特に、個別試験で課されない科目についてこの傾向が強く、解説冊子だけをたよりに演習を終わらせるのは、バーをぎりぎりでも通過しようという高跳びに似ています。

グラフは過去10年の共通テストでの数学の平均点の推移です。昨年はとんでもなく平均点が下がり、その後の出願に大混乱をきたした人も少なくありませんでした。この大変動は報道で大きく取り上げられ、学校でも話題になったので記憶に新しいと思います。共通テストは平均点が6割になるように作問されているはずなのですが、そのときどきの「バー」の高さが上下してしまうために平均点が推移するわけです。高跳びと違って、テストの「バー」は自分で設定することが



できないので、受験生としては想定したバーを飛び越えるために練習するしかありません。自己採点の結果を見ると、その想定が甘い場合、少しだけ上がったバーを引っかけてしまう受験生は予想以上に多いようです。

北須磨生はこのような状況に影響される人も多く、そのときどきにつまずいた先輩がいました。しかし、個別試験を念頭に学習していた受験生にとっては、共通テストのレベルの変化は取りたてて「難化」といえるほどの変動ではないことが多く、予定通りの得点を取ります。逆に、ひっかかった他の志望者は出願をためらうので、有利になります。高いバーを想定して学習を続けていた結果です。すべての北須磨生が「ぎりぎりの労力で受験を乗り切ろう」と考えているとは思いませんが、せつかくの演習ですから余裕をもってバーを越すことができるように、十分な跳躍力を身につけましょう。そのために、できなかった問題には少しだけ余分に時間を割いて、基本から確実に自分のものにするような、深い学習を心がけてください。

【大学説明会について】

16日(水) 関西大学

24日(木) 同志社大学